

図5 山陰地域における比抵抗構造。測線A~Gのうち4測線での結果を示す。黒丸は地震分布。

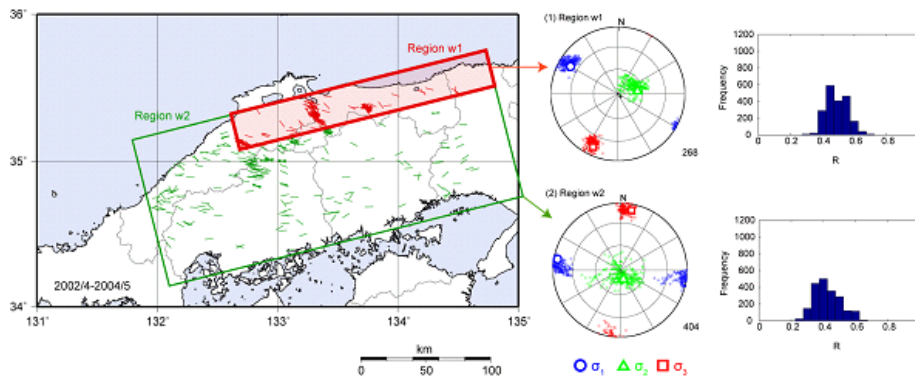


図7 (左)中国地方におけるメカニズム解のP軸の空間分布。(中・右)2つのregionにおいて、応力インバージョンにより推定された主応力の方向と応力比Rを95%信頼区間とともに表示。

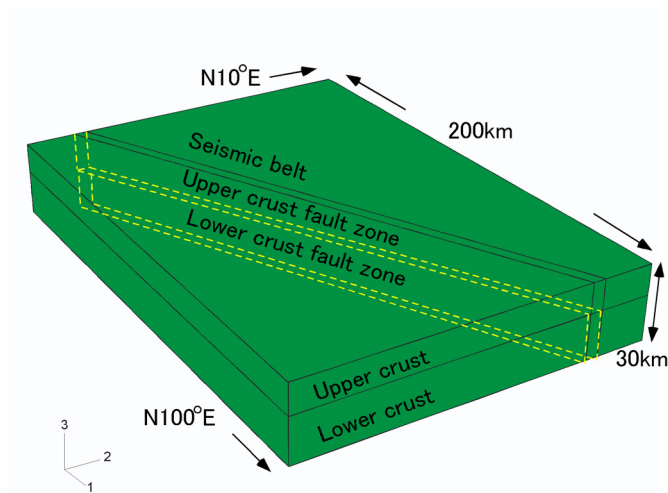


図8 FEMモデル。モデルの側面は水平面内主応力に直交するように取られている。この図の場合は、最大圧縮応力はN100°Eの方向で地震帯とは25°の角度を持つ。N90°Eで地震帯との角度が15°の場合も計算した。